

# あなたも一句詠んでみては？（千代女俳句ポスト）

## 千代女俳句ポスト

白山市では、加賀の千代女を生んだ土地として今も俳句が盛んで、例年秋に開催する「千代女全国俳句大会」には日本中から多くの方が訪れます。また、夏には市民をはじめ多くの企業から協力を得て、1万鉢余りの朝顔を展示する「千代女あさがおまつり」のほか、手軽に楽しめるよう「俳句ポスト」の設置や「少年少女俳句大会」の開催など、俳句によるまちづくりを積極的に進め、地域の魅力と活力の創出に努めています。

石川海岸を眺めながら一句詠んでみてはいかがでしょうか？



## 千代女

加賀の千代女は元禄16年（1703）、加賀国松任町（現在白山市）の表具師、福増屋六兵衛の娘として生まれました。幼いころから俳諧に親しみ、湊町本吉などの開明な俳人達に学んでいたと伝えられています。

享保4年（1719）美濃の各務支考は、松任で17歳の千代女に会い、あたまからふしぎの名人と絶賛しています。

宝暦4年（1754）52歳で剃髪した後の10年余りはめざましい活躍を見せ、宝暦13年（1763）には、藩命によって朝鮮慶賀使献上の句軸・扇を書上げ、翌年には既白編『千代尼句集』を発刊しています。こうした活動は地方俳壇に大きな刺激を与え、やがて全国的な俳諧中興の機運を醸成していったと考えられます。

安永4年（1775）9月8日、長くつづいた病のあと73歳で長逝しています。

代表句「朝顔に釣瓶とられてもらひ水」は広く知られ、その心は通じて今も多くの人々に親しまれています。

俳句ポストに投句された俳句の中から年4回入選作品を選定し「俳句ポスト入選句集」に掲載されます。また、「千代女の里俳句館」では千代女に関する展示や映像資料を見学することができます。詳しくは右側のQRコードからホームページへアクセスしてください。



■ 携帯電話版  
「千代女の里俳句館」

携帯電話から  
投句ができます。

<http://m-haikukan.city.hakusan.ishikawa.jp/>



国土交通省 北陸地方整備局

金沢 河川 事務所